

平成30年11月14日
(2018年)

保護者の皆さまへ

吹田市立津雲台小学校
校長 瀬崎浩美

平成30年度 全国学力・学習状況調査の分析について

本年度、6年生を対象として「平成30年度全国学力・学習状況調査」を実施し、9月上旬に個人ごとの結果をお返ししました。また吹田市でも、今回実施した調査結果の概要を吹田市のホームページを通じて公表しております。

この調査は小学校の最終学年のみを対象とした調査であり、教科も国語・算数・理科の3教科のみで、測定されたものは学力の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。そのことをまず踏まえつつ、調査によって得られた課題を明らかにし、その改善に全力を注ぐことが、調査本来のねらいであると考えています。

対象となった6年生には、よりきめ細やかな指導ができるよう取り組みを進めるとともに、学校全体として課題に応じた学力向上につながる具体的な指導法の工夫改善も図ってまいります。各ご家庭におかれましても、以下の分析結果をもとに、今後の家庭学習の指針として、参考にさせていただきますようお願いいたします。

1 教科に関する調査の分析

●国語《概要》

- ◎国語A（『知識』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。
- ◎国語B（『知識の活用』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。

今回の学力調査の結果は、国語Aは全ての問題で、全国値を上回りましたが、国語Bは1つの問題で、全国値をやや下回る結果でした。

●国語《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

話すこと、聞くこと

話し合いの参加者として質問の意図を捉えたり、司会の役割について捉えることについては、全国値を上回っていますが、話し手の意図を捉えながら聞き、自分の意見と比べ考えをまとめることについては、やや課題が見られました。

書くこと

目的や意図に応じ、内容の中心を明確にして、詳しく書くことは、全国値を上回っていますが、与えられた情報から正解を選ぶことについては、課題が見られました。

読むこと

目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことについては、全国値を上回っていますが、目的に応じて、必要な情報を捉えることについては、全国値をやや下回り、課題が見られました。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことについては、全国値を上回っています。主語と述語の関係などに注意して、文を正しく書くことについては、全国値を上回っていますが、やや課題が見られました。

☆国語科における成果と今後の改善点について

ほとんどの問題で、全国値を上回り良好な結果でした。ただ、最後の問題で無解答率が高かったため、時間内に大まかに文章を読みとることに課題があるのではと考えられます。

今後は課題となる以下の点について取り組みを進めます。

- ・目的に応じて必要な情報を捉えて読むために、見出しや目次を活用して読む、キーワードや図表と結び付けて読むなど、効果的な読み方を学習する。
- ・文の中の主語と述語との関係などに注意して、他者に向けて話したり、目的や相手を明確にした実用的な文章を書くなどの学習を行う。
- ・同音異義語や間違いやすい漢字を集めるなど、漢字の学習の工夫をする。また、授業だけでなく、日常生活の中で適切に漢字を使うことができるよう取り組む。

●算数《概要》

- ◎算数A（『知識』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。
- ◎算数B（『活用』に関する問題）・・・全国値を上回り良好である。

今回の学力調査の結果は、算数A・算数Bの各領域とも全国値を上回り、無解答率も少くないへん良好な結果でした。

●算数《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

数と計算

すべての問題で全国値を上回っていますが、割り算の意味を問う問題で、問題を読み取って、割り算の式にする力が弱い、という課題が見られました。

量と測定

すべての問題で全国値を上回っていますが、単量あたりの大きさを求める式と商の意味を理解しているかを問う問題で、式から意味を読み解く力が弱い、という課題が見られました。

図形

すべての問題で全国値を上回っていますが、円周率を使った計算の方法は理解しているが、円周率の意味を理解していないという課題が見られました。

数量関係

すべての問題で全国値を上回っていますが、記述式の問題では無解答率が高かったです。特に、グラフや表の情報を読み取り、それを根拠に理由を記述する問題や、基準値と割合を基に比較量を判断した理由を説明する問題は、正答率が低く課題が見られました。

☆算数科における成果と今後の改善点について

全体的には、全国値を上回り良好な結果でした。しかし、問題を最後まで正確に読むことができているため、題意に沿った答え方ができていないことや、絵や図に表す習慣がつかないため、わかっている情報を書き込むことができていないなどの課題が見られました。

今後は課題となる以下の点について取り組みを進めます。

- ・必要な情報を読み取る力をつけるため、問題を絵や図に表したり、式に単位をつけるなどを習慣づける、問題を読んで大切な言葉に印をつけるなどの方法を取り入れた学習を行う。
- ・日常生活の中で、算数の題材となるような問題を取り上げ、学習が身近なものとなる

よう具体的な場면을イメージできるような取り組みを行う。

- ・授業の中で自分の考えを書いたり発表したりする機会を今後も多く取り入れる。

●理科《概要》

◎『知識』に関する問題・・・全国値をやや下回る結果である。

◎『活用』に関する問題・・・全国値を上回り良好である。

今回の学力調査の結果は、特に、自然事象についての知識・理解の問題で、全国値をやや下回る結果でした。

●理科《各領域における成果と課題、指導改善のポイント》

A 区分(物質・エネルギー)

実験結果をもとに分析して考察する問題については、全国値を上回っていますが、すでに習った基礎的知識を生活経験や自然事象と関連付けて活用することに課題が見られました。

B区分(生命・地球)

すべての問題で全国値を上回っていますが、自然事象についての知識・理解を問う問題で、理科用語が定着できていない、という課題が見られました。

☆理科における成果と今後の改善点について

全体的には、全国値を上回り良好な結果でした。しかし、問題を全体的に見ることができず一部だけで判断したり、情報量が多いと混乱し必要な情報を選択できないなどの課題が見られました。

今後は課題となる以下の点について取り組みをすすめます。

- ・繰り返し学習で基礎的知識(理科用語)を蓄積させる授業を行う(フラッシュカード等で毎時間復習の時間をとるなど)
- ・複数の情報からどのようなことが言えるか、グループでの話し合いを通して得られた要点を整理して、それらを関連付けながら多角的な視点で判断する習慣を身につけさせる取り組みを行う。
- ・学習した知識を実際の自然事象や日常生活に適用して考えることができるように、実験の方法を自分で考えたり、図や模型を使って考えたり、説明したりする取り組みを行う。

2 生活習慣や学習環境等に関する調査の傾向 *「どちらかといえば当てはまる」を含む

【学習環境・生活環境・自分自身について】

- ・ほとんどの児童が「朝食を食べています」が、起床時間や就寝時間が不規則な児童が、比較的多いです。
- ・学校の「宿題はする」は全国値を上回っていますが、「復習・予習をする」と答えた児童は、全国値をやや下回り、自分から学習しようという児童は少ないです。
- ・「新聞を読んでいる」と答えた児童は、全国値を上回り、新聞に興味を持っている児童が多いです。
- ・「授業や課外活動で地域を調べたり、かかわったりする機会が多い」と答えた児童は多いですが、実際に「地域の行事に参加」「ボランティアへの参加」する児童は少ないです。しかし、「人の役に立つ人になりたい」と思っている児童は、全国値を上回っています。

- ・「いじめはどんな理由があっても絶対にいけない」という質問に、「当てはまらない」と答えた児童は、やや全国値を下回っています。
- ・「学校の授業以外に読書をしている」児童は多く、また読書時間の長い児童が多いです。
- ・「自分にはよいところがある」「将来の夢や目標がある」と答えた児童は、全国値をやや下回り、自信のなさや将来への不安を感じる児童もいます。

【教科・学習・学校生活について】*今回は、おもに「算数」と「理科」に関する質問でした

(算数)

- ・今回の算数の問題を解答するにあたって、「最後まで解答しようと努力した」児童が多く、「書く問題は全く解答しなかった」児童はいませんでした。
- ・「授業の内容はよくわかる」と答えた児童は多いですが、算数に関する全般的な関心や意欲は低いです。

(理科)

- ・今回の理科の問題を解答するにあたって、「最後まで解答しようと努力した」児童が多く、「書く問題は全く解答しなかった」児童はいませんでした。
- ・「自然の中で遊んだり、自然観察を体験している」児童は多いです。
- ・「観察や実験は好き」と答えた児童は多いですが、「観察や実験からどのようなことが分かったか」「進め方や考え方が間違っていないかを振り返ったりする」と答えた児童は、全国値をやや下回っています。
- ・「授業の中で自分の考えを説明したり発表したりする」と答えた児童は、全国値を上回っていますが、理科に関する全般的な関心や意欲は低いです。

3 今後の取り組み

今回の全国学力・学習状況調査は、全体的に全国値を上回る結果となり、日頃の子どもの学習への姿勢が反映されたものとなりました。これも、保護者の皆様が日々支援し、励ましてくださったおかげだと思います。今後は、調査によって明らかになった課題について検証し、その課題解決に向けた取り組みを充実させていきます。

特に、学習面においては、「自分の考えを説明する」力をつけるため、「グループで意見交流を行う場面を増やした授業」や体験授業等で学んだことを「発表したり表現できる機会を増やす」など、取り組んでいきます。また、子どもたちが学習した内容を実生活に結びつけられるような授業やわかりやすい授業等を目指すとともに、基礎的な知識の定着や授業やテストで理解できなかったところを粘り強く指導していきます。

生活環境や学習環境等に関する調査結果では、今年度も家庭教育力が高く、児童にとって恵まれた環境にいることがわかりました。「人の役に立ちたい」と思っている児童が多い反面、「自分の良さや将来の目標に不安を感じる」児童もいます。そこで、努力している子どもをほめ評価し、仲間意識を育て、リーダーやリーダーを支える子どもを育てていきたいと思えます。また、以前より古中ブロックで研究授業を行い、指導方法等の取り組みをしております道徳教育を通して、ルールを守り、マナーを大切に育てる態度の育成にも努めて参ります。昨年に引き続き、保護者の方からご寄付いただいたたくさんの方々や定期購読している新聞を活用し、さらに読書活動や学校図書館教育の充実などにも努めていきたいと思えます。

学校は、子どもたちがどんな状況にも対応できるよう思考力・判断力・表現力の育成に努めてまいります。そのためには、家庭・地域とのさらなる連携が必要です。今後とも学校の取り組みにご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。